

開講科目名 /Course	システムアーキテクチャ / System Architecture	
時間割コード /Course Code	47000-77	
共通科目コード /Common Course Code	GFS-CC6A12L1	
学部/大学院 /Undergraduate/Graduate	大学院 / Graduate	
開講所属 /Course Offered by	新領域創成科学研究科 / Graduate School of Frontier Sciences	
ターム・学期 /Term・Semester	2022年度 / Academic Year S 1 / S1	
曜限 /Day, Period	金 / Fri 5	
開講区分 /semester offered	S1S2 / S1S2	
単位数 /Credits	2	
学年 /Year	M1/M2/D1/D2/D3	
他学部履修 /Available to students in other faculties	可	
備考 /Notes		
主担当教員 /Main Instructor	袴方 和夫、今野 義浩、和田 良太、柚井 智洋、佐藤 圭二、白石 耕一郎、和中 真之介	
教室 /Classroom	新領域環境棟 2F 講義室2 / Environmental Studies, GSFS Lecture Room 2	
教員名 /Instructor	教員所属名 /Affiliation	職名 /Job Title
袴方 和夫	人間環境学専攻	教授
今野 義浩	海洋技術環境学専攻	准教授
和田 良太	海洋技術環境学専攻	准教授
講義題目 /Subtitle	システムアーキテクチャ / System Architecture	
授業の目標、概要  /Course Objectives/ Overview	<p>製品やサービス、企業などの組織はさまざまな機能を組み合わせることでユーザーの要求を満たしている。小さな機能の組み合わせから異なる機能が発現する仕組みをシステムと呼ぶ。システム・アーキテクチャとは、機能の実現手段への割り当てや、機能の組み合わせを指す。</p> <p>本講義は、様々な機能が1つになることで首尾一貫した全体を創り出し、結果として生まれる機能が個別要素の機能の和を越えるという創発のメカニズムを理解する方法に焦点を置く。具体的には、技術や製品、組織などの理解や、どのように変えていくかといった意図を、ダイアグラム等に記述して組織で共有する方法を講義で習得する。講義で習得した方法によって知識や意図を共有することで、新しい技術や製品が利用されるシステムや、様々な製品の組み合わせによって実現されているサービスについてのより良い意思決定が期待できる。</p>	
授業情報 /Class information	<p>指定した教科書の各章を以下の順序で扱う。</p> <p>&lt;イントロダクション&gt; 第1章 システム・アーキテクチャの紹介</p> <p>第2章 システムシンキング</p> <p>&lt;テーマ1：新しいシステムの創成（1）利害関係とその要求の記述&gt; 第11章 ニーズから目標への変換</p> <p>&lt;テーマ2：運用中のシステムやビジネスを理解するための分析方法&gt; 第3章 複雑なシステムについて考える</p> <p>第4章 フォーム (Form)</p> <p>第5章 機能 (Function)</p> <p>第6章 システム・アーキテクチャ</p>	

	<p>&lt;テーマ3： 新しいシステムの創成（2） 複雑なシステムが取り得る選択肢の探索&gt; 第7章 ソリューションニュートラル機能とコンセプト</p> <p>第8章 コンセプトからアーキテクチャへ</p> <p>第12章 コンセプト策定における創造性の適用</p> <p>第10章 システム・アーキテクチャにおける上流・下流の影響</p> <p>第13章 複雑さをマネジメントするためのツールとしての分解</p> <p>第14章 意思決定プロセスとしてのシステム・アーキテクチャ</p> <p>&lt;テーマ4： システムのパフォーマンス予測&gt; 第15章 アーキテクチャのトレードスペースに関する推論</p> <p>第16章 システム・アーキテクチャ最適化問題の定式化と解決</p> <p>&lt;オプション&gt; 第9章 アーキテクトの役割</p>	
<p>授業のキーワード /Keywords</p>	<p>日本語用 /Japanese 英語用 /English</p>	<p>システムアーキテクチャ, システム思考, 複雑システム, 意思決定 System Architecture, System Thinking, Complex System, Decision Making</p>
<p>授業計画 /Schedule</p>	<p>日付、担当講師</p> <p>第1回（稗方） 第1章 システム・アーキテクチャの紹介 第2章 システムシンキング</p> <p>第2回（柚井） 第11章 ニーズから目標への変換 1</p> <p>第3回（稗方） 第11章 ニーズから目標への変換 2</p> <p>第4回（和中） 第3章 複雑なシステムについて考える 第4章 フォーム (Form)</p> <p>第5回（佐藤） 第5章 機能 (Function)</p> <p>第6回（柚井） 第6章 システム・アーキテクチャ</p> <p>第7回（和中） (第7章 ソリューションニュートラル機能とコンセプト) 第8章 コンセプトからアーキテクチャへ</p> <p>第8回（和田） (第7章 ソリューションニュートラル機能とコンセプト) 第12章 コンセプト策定における創造性の適用</p> <p>第9回（佐藤） 第10章 システム・アーキテクチャにおける上流・下流の影響</p> <p>第10回（今野） 第13章 複雑さをマネジメントするためのツールとしての分解 第14章 意思決定プロセスとしてのシステム・アーキテクチャ</p> <p>第11回（白石） 第15章 アーキテクチャのトレードスペースに関する推論</p> <p>第12回（稗方） 第16章 システム・アーキテクチャ最適化問題の定式化と解決 宿題：第9章 アーキテクトの役割 を読むこと</p>	

	<p>第13回（稗方） 全体の復習、試験の説明 （オンライン講義導入によるトラブルに対応する予備時間を含む）</p> <p>第14回（稗方） 試験</p>
<p>授業の方法 ／Teaching Methods</p>	<p>すべての講義についてZoomを利用したオンライン講義を行う。</p> <p>1 対多数のセミナー形式と、ブレイクアウトルーム機能を用いた少人数の演習への切り替えを予定しているため以下の条件を満たして接続すること。</p> <p>1. パソコンやタブレットなど、1人1台を利用し、複数人が1台の接続機器を共有しないこと。 2. 聴講だけでなく発言できる環境から講義に接続すること。 3. 同室から複数人が講義に接続する場合、コロナウイルス感染防止と他の受講者の発言が混ざること避けるためマスク着用の上、十分な距離をとること。 4. ウェブカメラの利用を推奨するが、帯域が不足するなどの理由があればオフにして構わない。 5. オンライン受講のための学内の講義室・セミナー室等の開放は行わない。</p>
<p>成績評価方法 ／Grade Evaluation</p>	<p>講義への態度および期末試験（オンライン）</p> <p>講義内容の基礎知識を問う形のオンラインのテストを行う。モデリングなどの解答に自由度のある問題について、おおむね回答が一つに定まるような問題にして行う。</p>
<p>教科書 ／Textbook</p>	<p>E Crawley et al.: System Architecture, PEARSON, 2016, システム・アーキテクチャ（翻訳版）, 丸善出版, 2020.</p> <p><a href="https://www.maruzen-publishing.co.jp/item/b303499.html">https://www.maruzen-publishing.co.jp/item/b303499.html</a> <a href="http://system-architect.org/">http://system-architect.org/</a></p> <p>教科書は英語版、日本語版、印刷版、電子版を問わない。</p>
<p>参考書 ／Reference</p>	<p>「システム思考がモノ・コトづくりを変える デジタルトランスフォーメーションを成功に導く思考法」 稗方 和夫, 高橋裕（日経BP）</p> <p><a href="https://www.nikkeibp.co.jp/atclpubmkt/book/19/P89760/">https://www.nikkeibp.co.jp/atclpubmkt/book/19/P89760/</a></p>
<p>履修上の注意 ／Notes on Taking the Course</p>	<p>前提知識は特に必要としない。</p>
<p>関連ホームページ ／Course-Related Websites</p>	<p><a href="https://professional.edu.k.u-tokyo.ac.jp/">https://professional.edu.k.u-tokyo.ac.jp/</a></p>
<p>その他 ／Others</p>	
<p>メールアドレス ／e-mail address</p>	<p>is-contact@edu.k.u-tokyo.ac.jp</p>
<p>授業使用言語 ／Language Used in Class</p>	<p>日本語</p>